

## 名前 \_\_\_\_\_

基本メニュー (☆☆☆) …必ずやりましょう。

	チェック
① 週テストの復習用を解く	
② 授業用テキストを読み直す 太字になっている部分は書いて覚えるとよい。	
③ 宿題用テキストの基本問題A・基本問題B・復習問題を解く	

応用メニュー (☆☆) …基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Aを解く	

発展メニュー (☆) …チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Bを解く	

担当より一言

今回は、中和実験(1)について学習しました。

まず、中和反応に入る前に基本となる水溶液の性質を覚えましょう。水溶液の性質は、  
 塩酸→「塩化水素」という「気体」が溶けた「酸性」の水溶液  
 水酸化ナトリウム水溶液→「水酸化ナトリウム」という「固体」が溶けた「アルカリ性」の水溶液  
 というように「溶けているものの名前」「溶けているものの状態」「性質」の3点セットで覚えてください。  
 それを覚えた上で、各性質のときの指示薬(リトマス紙、BTB液、フェノールフタレイン液、ムラサキキャベツ液)の色の変化は、テキストの表をそのまま自分で書けるようになりましょう。

中和反応については、

- 中和とは、酸とアルカリが互いの性質を打ち消すこと。
  - 中和反応で、酸性とアルカリ性のお互いの性質を打ち消しあって中性になったときが完全中和。
  - 酸とアルカリを混ぜると塩(えん)と水ができて、中和熱が発生する。
- という基本事項を押さえた上で、もっとも重要となる塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を混ぜたあと水を蒸発させたときに残る固体のグラフを理解していきましょう。

塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加える場合と、水酸化ナトリウム水溶液に塩酸を加える場合で、なぜグラフの始まる部分が違うのか、完全中和したあとにグラフはさらに上がるのか一定になるのか、その2点が理解できれば、他の水溶液を混ぜて中和したときのグラフの形もわかるようになります。また、次回に取り組む中和の計算問題にもつながっていきます。

※G模試の範囲は第24回～第33回内容です。

まとめテスト後が7割程度、夏期講習内容が3割程度の出題となります。